

未来を拓く 企業訪問

SDGsの国際目標 2030年まであと9年。地球の持続可能性は企業としても取り組まざるを得ない目標となってきました。企業責任というだけでなく、企業価値向上など、その方向性は多岐に渡ります。当社がお取引いただいている企業様の表からは見えてこない独自の取り組みについて、インタビューした内容をご紹介します、その事例をお届けいたします。

株式会社きもと 様



◆主な事業内容

創業72年の同社は画像情報処理技術とタッチスクリーン等の多種多様な機能性フィルムの開発・製造を中心に、本社・研究所を埼玉県におき、三重県と茨城県、アメリカジョージア州で製造をされています。IoT時代には欠かすことのできない技術を中心に、「100年継続する企業を目指して」を理念に、ワークフロー改革（働き方改革）など多くの取り組みを進められています。

ワークフロー改革（働き方改革） 3つのワークスタイル



地域貢献（きもとファーム）



SDGs への取り組み

2009年よりワークフロー改革を推進してきたことで、今回のコロナ禍でテレワーク中心の働き方が求められた際も、業務を止めることなく進むことが出来た。ワークフロー改革で最初に着手した「そで机」をなくすこととの目的は、従業員の意識改革とペーパーレスを推進するためであった。ペーパーレスが働く場所を限定しなくなり、さらに改革は進んだ。場所にとらわれない働き方になり、日本各地のサテライトオフィスを閉鎖し、ついに新宿メインオフィスも閉鎖。工場・研究所勤務の方を含む全従業員のうち、50%以上の方がテレワーク可能。独自開発のシステムで、いま誰が、どこで仕事をしているか判る仕組みもできている。個人の名刺には会社住所も一切明記されていない。

いなべ市の休耕地を使った、米作りを通じ地元の方と協力して地域の活性化を図ろうと活動されている。米作りでは解析技術を用い、衛星写真から稲作に必要なデータを抽出・分析して翌年に反映、美味しいお米作りに役立てられている。獣害を受けにくいということからダリア栽培をはじめ、2019年にダリア園をオープン。オープン以来多くの地域の方が来園され、楽しまれている。

何かを始めるとき 70%

何かを始めるときは全従業員対象のアンケートで70%の賛同が得られなければ新しいことは推進できない。社内の理解がなければ、改革は進まないからである。アンケートで70%の賛同が得られるとプロジェクトが発足され、改革に対して、疑問や反対意見のある方には改革の意図を詳細に説明し、理解を得られるように進める。コロナ禍のテレワークでも、お揃いのマグカップやユニフォームなどでコミュニケーションを図る工夫をされている。

毎日仕事をサボれる従業員はいない

テレワークやスーパーフレックスになると上司が部下の仕事を間近でみることはできないが、従業員を信じればこそ、社内システムの構築やWEB会議などでコミュニケーションが図られている。評価制度を廃止し、独自の表彰制度や、年に1回の社長面談なども社員のモチベーション向上に繋がっている。

インタビューの感想

インタビュー後、自身のデスクに戻ると山積みの紙と、ここでしか仕事ができないという現状に、非常にギャップを感じました。今回突然のテレワークとなり戸惑われた方も多かったと思われます。ここでは多くを紹介できませんでしたが、ホームページには多くの取り組みや改革が記されており、一つ一つが年月をかけて少しずつ取り組まれたご努力であると感じました。きもと様の改革は今後、どの企業にもあてはまる道標になるのではないのでしょうか。また今回対応していただいた担当者3名様のチームワークや雰囲気がとてもよく、仕事にやりがいを持って進められていることに、社風を感じました。

測ってみよう! 探検隊 Vol.72

「焼きみかん」を食べて風邪知らず? 焼くと何かが変わる!

古くはストーブで、今ならトースターやオープン、フライパンなどでみかんを焼く「焼きみかん」を食べたことはありますか? ミカンはビタミンCや食物繊維が豊富なだけでなく、β-クリプトキサンチンの抗酸化性も備えているそうですが、焼くと甘みが増すだけでなく、これら有用な栄養素が増すとか? どれくらい変化があるのかを測ってみました。結果は甘みが増し、果汁の色も変わり、明らかに違った味になりました。しかし、今回増えるだろうと予想し、測定してみた抗酸化物質「β-クリプトキサンチン」の含有量はほとんど変わらない結果でした。もし「焼きみかん」を試したことない方はぜひ味の違いを楽しんでみてください。

	果汁の色	糖度 (度)	β-クリプトキサンチン (μg/100g)※
みかん (果皮を含まず)	オレンジ	12	1680
焼きみかん (果皮を含まず)	黄	13	1690

※測定方法: 高速液体クロマトグラフ

換気量測定のご案内

～必要な換気量は満たされていますか?～

オフィスにおける新型コロナウイルス感染症予防対策の一つとして、換気が重要とされています。「ビル衛生管理法（建築物における衛生的環境の確保に関する法律）」の基準に適合していれば問題ないとされていますが、冬場はどうしても換気がおろそかになりやすい時期です。当社では二酸化炭素・温度・相対湿度を測定し、また設置されている機械換気装置の実測による評価も含めて、必要換気量（一人あたり毎時30㎡）を満たしているかどうかの測定を行います。ぜひ一度ご検討ください。



社員プチコラム

前川 卓也（環境事業本部 松阪分析センター 松阪調査Gr）

ボランティアとして消防団活動に参加して4年目になりました。火災や台風等の災害発生時に消火活動や救助活動ができるよう、定期的に訓練を受けています。私は今の居住地に引越してきており、地域の事は何も知らなかったのですが、この消防団活動を機に消火栓の場所や防火水槽の位置を把握でき、防災意識が高まりました。災害発生時には24時間いつでも招集がかかります。仕事との両立をしながら可能な範囲ではありますが、人々の生命や財産を守るための一助ができると信じ出動しています。まだまだ寒い時期が続きますので、引き続き火の元にはお気を付け下さい。



編集後記

日頃業務に携わっていて、テレワークで仕事をなさっている方が周りに増えてきました。当社は現地測定や社内分析など難しい面も多く、積極的な推進には至っていませんが、「働き方改革」と「コロナ禍」が重なり、今が社会の転換期であることは間違いないと思います。この先数年後の状況も全く読めませんが、時代の流れについていきたいものです。（みっちー）

